

# 牛久：学校周辺に見る自然

第5号 牛久自然観察の森，ひたち野西近隣公園，筑波実験植物園 2012年5月8日発行

## ＜ 春の花に来る虫たち ～梅から桜へ ＞

早春、まだ朝晩の冷え込みがつかいころ、虫たちの活動も活発ではありません。きれいに花が咲いていても、その花粉を運んでくれるチョウは、ほとんどが蛹（さなぎ）や卵などで越冬中です。また、ミツバチなどのハナバチ類も、すぐには動き出せない状態です。そんなときに活躍するのが、ハナアブやハエの仲間たち。日差しがあつて少し暖かくなると、すぐに飛び出して花粉やみつをなめながら、体についた花粉を、花から花へと届けてくれます。



フクジュカイ（福寿草：ふくじゅそうの園芸品種）と、その花粉を食べるホソヒラタアブ。3/1，筑波実験植物園

写真は、福寿草の品種、フクジュカイで、ホソヒラタアブが花粉を食べているところです。フクジュソウはみつを出さず、パラボナアンテナのような形の花で光を集め、花の中が暖かくなるので虫が集まるといわれていますが、このように花粉を求めてやってくる虫もいるのだと発見しました。



ウメのみつを吸う、ナミハナアブ（左：3/15，牛久自然観察の森）と、花粉を食べるコマバムツホシヒラタアブ（3/3，筑波実験植物園）。どちらも、ハナアブの仲間。ハチではありません

こちらと同じく、ハナアブの仲間。ハチではありませんよ。どこが違うでしょうか？くらべてみましょう。（ヒント．翅（はね）や触覚（しょっかく）、胸部（きょうぶ）腹部（ふくぶ）間のくびれなどに注目してみましょう。答えは、いつか機会のあるときに…。）この日はどちらもとても暖かな日でしたが、まだミツバチは、ほとんど見かけませんでした。



ウメの花に来たアブの仲間(左:獲物を待ち伏せしているのか?,右:花粉を食べている。)ともに3/15,牛久自然観察の森

こちらはアブの仲間。ハチではありません。アブの中には、花粉やみつではなく、それらを求めてやってきた、虫たちをねらっているものもいます。何をしているのかを知るには、じっくりと観察する必要があります。体のつくりなども参考になりますね。



ウメの花粉を食べるナミハナアブ(左:3/15,牛久自然観察の森,ナミハナアブは、蜜も吸う。)と、裏から穴を開け蜜を盗むセイヨウミツバチ(右:3/3,筑波実験植物園,蜜を吸うだけで花粉を運んでくれない。)

左は、ナミハナアブ。前ページの写真にもあるように蜜も吸いますが、花粉も食べます。ハナバチの仲間ではないので、「花粉かご」はありません(あ、上の問題の答えの一つを言ってしまった…。でも、まだ他にも違いがありますよ。)。右は、花の裏側(その表側にはみつがたまっている。)に穴をあけて、みつをたっぷり吸っているセイヨウミツバチです。写真をとっていた10数分以上、ずっとこうやって吸い続けていました。ウメの花にとっては、みつだけもっていかれては災難でしたが。



ヤマザクラの蜜を吸うニホンミツバチ。体じゅうに花粉をつけて、他の花へ届けてくれる。ともに4/13,水辺公園。

ウメから桜に主役が移り変わるころになると、ミツバチなど、ハナバチの活動が活発になります。「みんなハチだよ。」などと先入観にとらわれずに、観察してみましょう。ただし、本物のハチの中には、オオスズメバチなど怖いのもいますから、これからの季節、注意が必要です。質問があれば、理科室、宮内まで。担任の先生を通して聞いてくれてもいいですよ。 【理科支援員：宮内】